

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)関西大倉学園新校舎	階数	地上4F、地下1F
建設地	大阪府茨木市室山二丁目	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	1,800 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,400 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年1月 予定	評価の実施日	2019年4月24日
敷地面積	130,270 m <sup>2</sup>	作成者	野口鮎子
建築面積	3,445 m <sup>2</sup>	確認日	2019年5月9日
延床面積	10,901 m <sup>2</sup>	確認者	奥石秀人



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.4**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 87%

③上記+②以外の 87%

④上記+ 87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.4**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.8

**LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 里山や既存の樹木を生かした校舎: 既存の里山の地形を活かし、切土盛土を最小とする地形に沿った配棟計画を実現。里山からの涼風を取り込むような大開口や直射光をカットする庇を設けた外観デザイン。既存棟の間には、既存樹木を活かした大きな中庭を設け、生徒が季節感を感じながら憩い集える環境を創出する。		その他
<b>Q1 室内環境</b> 各居室の室内騒音レベル、遮音性能共にレベル3相当とし、快適な教室環境を創出する。温熱環境、湿度制御、空調方式ともにレベル3相当とし、各教室に昼光センサー、換気にはCO <sub>2</sub> 制御を導入。	<b>Q2 サービス性能</b> 居室の天井高さは3mとし、共用部を広くすることで快適性を高めた。構造はRC造で基準法に定められた25%増の耐震性を確保。設備は屋外や高湿となる空調換気ダクトに耐食に優れた材質を使用し、長寿命化を図る。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 当該敷地は里山の緑豊かな環境にあり、既存の緑地を最大限残す計画とした。校舎各所に中庭やテラスを設け、生徒が豊かな自然を感じながら学べる環境を創出。設備計画は、空調室外機を屋上に集約し、排熱位置に配慮。
<b>LR1 エネルギー</b> 建築計画は、吹抜上部にトップライトを設け、自然通風、自然採光を導入。安定した温熱環境確保のため、南面・西面は直射日光を遮る大庇を設け、Low-eペアガラスを採用。照明は、昼光センサーによる自動調光制御、トイレには人感センサー点滅制御を導入。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 水資源確保のため、節水型便器の採用や、主要水栓へ節水コマの設置をしている。また材料使用量の削減のため、構造躯体の一部にプレストレストコンクリートを採用している。リサイクル材としては、再生石膏ボード、再生カーペット、高日射反射率防水を採用している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 温熱環境悪化の改善のため、既存の緑地を極力残し既存棟との間に中庭を設け、十分な隣棟間隔を確保している。交通負荷抑制としては、通学は専用バス利用をメインとしており、自転車利用者数に応じた駐輪場の確保、教員数に応じた駐車場を確保している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# 大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0026

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	(仮称)関西大倉学園新校舎					
		建設地	大阪府茨木市室山二丁目					
		用途/区分	学校(小中高)					
【評価結果】		CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					4		
②	みどり・ヒート アイランド対策					4		
③	建物の断熱性					5		
④	エネルギー削減					4		
⑤	自然エネルギー直接利用					○		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない		
【評価項目】								
項目		評価内容			スコア	評価		
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価			3.5	4		
② みどり・ヒートアイランド対策								
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価			4.0	4		
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価			4.0			
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価			3.0			
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価			5.0	5		
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価			4.0	4		
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価			3.0	○		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。			報告する 報告しない	報告しない		
その他								
		技術の名称			考慮事項			
先進的技術の導入								
特に配慮した事項								